

令和7年度 糸魚川市障害者差別解消支援地域協議会 次第

日時:令和8年3月19日(木)11:00~

場所:糸魚川市役所2階 203・204 会議室

1 開会

2 自己紹介

3 報告・協議事項

(1)令和7年度 事業の取組状況

資料No.1

(2)事例提供

資料No.2

(3)意見交換・情報交換

4 その他

5 閉会

令和7年度 事業の取組状況

1 障害者差別の相談

取組項目	相談窓口
相談0件 (4月～2月)	福祉事務所 地域包括ケア係

2 安心して暮らせる場づくりの取組

取組項目	日時・内容
障害者理解促進事業補助金	交付1件

3 啓発と理解の促進

取組項目	日時・内容
小中学生こころのバリアフリー教室	9月9日 根知小学校：視覚障害 9月11日 下早川小学校：視覚障害 10月3日 西海小学校：聴覚障害 11月27日 大野小学校：聴覚障害
こころのバリアフリートーク (主催：地域生活支援センターこまくさ)	第1回 7月11日 キターレ 「知的障がいのある人の就労支援」 第2回 11月14日 キターレ 「成年後見制度って？」 第3回 3月13日 キターレ 「見えない障がい精神障がいとともに生きる」
バタバタまつり	10月11日 事業所紹介、手話講座、製品販売等
糸魚川白嶺高校 こころのバリアフリー講座 (主催：地域生活支援センターこまくさ)	第1回 7月11日 「視覚障害について」 第2回 10月10日 「聴覚障害について」 第3回 1月9日 「精神障害について」
障害者アート展	12月3日～11日 市役所市民ホール
市職員こころのバリアフリー研修	3月16日 発達障害、精神障害のある方との関わり方
UDトーク導入	福祉事務所窓口に音声認識ソフト「UDトーク」 が使えるタブレットを導入

障害理解・障害者差別 事例集

ケース1 駅で筆談に応じてもらえなかった（聴覚障害）

状況 両耳に補聴器を着けているAさんは、駅で電車を降りるときに他の乗客の荷物があたって、片方の補聴器をなくしてしまいました。駅の窓口に、「筆談に応じます。」と表示があったので、スマートフォンに「補聴器をなくしましたので探してほしい」と表示し伝えたが、筆談に応じてもらえなかった。

駅側 片方の耳に補聴器を着けておられ、こちらの質問にも、口頭で応じておられたので、問題ないと思っていました。

相談者 駅員さんが何か言っておられましたが、よくわかりませんでした。話せても聞こえづらい人がいることを知ってもらいたいです。

対応結果 相談員から、会話が成立しているように思えても、聞こえづらい場合や伝わっていない場合があることを説明し、今後の対策の検討を依頼しました。

駅側から、「今回の事例を踏まえ、聴覚障害者のあるお客様には、コミュニケーション方法をその都度丁寧に確認することを研修で改めて全職員に周知しました」との報告がありました。

- ・聴覚障害のある人の中には、生まれつき全く聞こえない人や、事故や病気などによって聞こえなく（聞こえにくく）なった人（中途失聴・難聴）がおられます。
- ・その人その人に応じたコミュニケーション方法（手話・筆談・口話など）を確認しましょう。

ケース2 バスで優先席を譲るようアナウンスされた（内部障害・難病）

状況 内部障害のあるBさんは体調が悪かったため、バスの優先座席に座っていた。途中のバス停で、白杖を持った人が乗車してきたところ、間もなくして運転士が、「優先座席を譲ってください。」と車内アナウンスした。

相談者 私に向けて言われていると感じました。周りの人の視線を感じて居心地が悪くなりました。外見でわからなくても、障害がある人がいることを理解してもらいたいです。

バス側 視覚障害のある人に席を譲っていただくよう社内アナウンスをしましたが、特定の方に向けてお願いしたものではありません。乗客の方にも、外見ではわかりづらい障害がある人への理解をしてもらうことが必要ですね。

対応結果 相談員からバス事業者に対し、外見からはわかりにくい障害があることについて、改めて理解を促すとともに、他の乗客への周知啓発や職員研修について依頼しました。

バス事業者にはおいては、優先座席付近にヘルプマークに関するステッカーを掲示するとともに、外見ではわかりにくい障害がある人などへの配慮を促す車内アナウンスを行うことにしました。

- ・見えない障害があることを知り、見えない障害への理解を深めましょう。